

| | |
|------------------|---|
| Title | Preface |
| Sub Title | |
| Author | 富田, 勝(Tomita, Masaru) |
| Publisher | 慶應義塾大学湘南藤沢学会 |
| Publication year | 2013 |
| Jtitle | 生命と情報 No.20 (2013.) ,p.4- 5 |
| JaLC DOI | |
| Abstract | |
| Notes | 慶應義塾大学湘南藤沢キャンパス先端生命科学研究会 2013年度学生論文集 |
| Genre | Technical Report |
| URL | https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO92001004-00000020-0004 |

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

Preface



本論文集は、慶應義塾大学湘南藤沢キャンパス (SFC) 先端生命科学研究室および鶴岡タウンキャンパス (TTCK) 先端生命科学研究所の学生論文要旨集です。

2013年度も多くの学生が活躍して様々なアワードを受賞しました。

下英恵君 (修士2年) が、ストックホルムで開催されるノーベル賞授賞式と晩餐会に招待を受け参列したため、土岐珠未君 (総合4年) が、第90回日本生理学会大会で若手学生ポスター賞 (Junior Investigator's Award) を受賞するためにそれぞれ SFC アワードを受賞しました。また、臼居優希君 (総合4年)、石黒宗君 (環境4年)、真流玄武君 (環境4年) の卒業論文が、優秀卒業プロジェクトとして SFC アワードを受賞しました。

業プロジェクトとして SFC アワードを受賞しました。

その他にも、新土優樹君 (修士2年) が日本学術振興会の奨学金 (DC1) に面接免除で採択されました。吉田勇太君 (修士1年) が、ユングレナ研究会第29回研究において若手優秀発表賞を受賞しました。SFC Open Research Forum における「卒業プロジェクト発表」においては、臼居優希さん (B4) が最優秀賞 (1位)、土岐珠未さん (B4) が優秀賞 (3位) を受賞しました。また、小川隆君 (博士課程3年) が、ビジネス創造コンテストにて、70チーム以上のなかから最優秀賞を受賞し、優勝しました。

研究室内の表彰としては、石井千晴君 (修士2年)、新土優樹君 (修士2年)、広瀬友香君 (修士2年) が優秀修士論文賞、青木莉子君 (環境4年)、板谷英駿君 (環境3年) が優秀賞、川本夏鈴君 (環境3年)、小林朝紀君 (環境3年)、高藤真由子君 (環境2年)、引地志織君 (環境1年)、神野祥子君 (環境1年) が奨励賞をそれぞれ受賞いたしました。おめでとうございます。

バイオインフォマティクスと実験生物学の融合を目指して、2001年4月に山形県の慶應大学鶴岡キャンパスに先端生命科学研究所を開設してから、今年で13年目になります。2007

年度からSFC大学院の政策メディア研究科の「バイオインフォマティクスプログラム」は「先端生命科学プログラム（英語名： Systems Biology Program）」に改名し、また環境情報学部でもバイオ系科目が充実しました。このカリキュラムの目玉はなんと言っても、一年間鶴岡キャンパスに滞在して毎日実験実習を集中的に体験できる「バイオキャンプ」です。毎学期16人程度の学生が参加していますが、バイオキャンプに参加した学生のうち多くはその後も鶴岡に短期・長期に滞在し、世界最先端の施設を利用してバイオ実験を行っています。

システム生物学という新たな切り口で先端技術を開発し、それらを駆使して生命科学、医学、環境科学のブレイクスルーを目指す。それはチャレンジングでとても楽しいことであり、なにものにも替えがたい究極の贅沢だと考えています。

“Science is ultimate amusement”

2014年3月吉日

富田 勝

